

名古屋大学構内のゾウムシ

井上晶次・井上絹代

目 次

はじめに

調査方法

これまで多数の生息が確認されていたが、2000 年度の調査で確認
できなかった種

2000 年度の調査で新たに生息することが確認できた特長ある種

年別採集記録

名古屋大学構内のゾウムシ目録

愛知県の甲虫相概論に記載されていない種

今後名大の自然環境を考える上で調査が容易な種

除草剤などの影響を受けやすいと思われる種

おわりに

はじめに

近年、環境問題が切迫した状況に立ち至っている。中でも、温暖化、

ダイオキシンはじめ内分泌攪乱物質などの汚染物質問題は山積みである。それらに直接的に関わる問題は避けて通ることができない重要課題であるが、必ずしもいまだ適切な処理がなされていないのが実状である。

名古屋大学構内においても、建物の増改築、都市高速道路建設に伴う樹木の伐採等が行われ、緑地面積は減少しつつある。反面、植林や自然林の成長も見られる。しかしながらそれらが自然に対してどれほどの影響を与えてきたのかは単年度の研究ではなかなか明らかにされない問題がある。そこで、著者らは約 20 年間採集してきた甲虫目に属するゾウムシ科昆虫が、まだ自然が残されているという名古屋大学東山キャンパス内でどの程度生息しているかを、2000 年を期にはっきりさせ、これら物言わぬ小さな昆虫からの自然に対する警告と受け止め、それらを詳細に記録しておくことが今後環境問題を研究するにあたって重要であると考えここにまとめることとした。

名古屋大学東山キャンパスは四ッ谷通りで東西に分かれ、西側は造成整備され標高差もほとんどないが、東側は本部棟と環境医学研究所、環境医学研究所と大気水圏科学研究所に挟まれた谷が形成され、多様な植物が自生しており、これらの植物および枯れ木などに多数のゾウムシ科昆虫が生息している。また農学部東側の湿地、農学部の研究用圃場、水田の周辺には、雑草も多くこれらにも多数のゾウムシが生息している。この名大事務局から農学部に至る道路の東側の地域は名古屋市の風致地区となっており、緑被率 45%以上の指定を受けているので現在約 51%に保たれている。

調査方法

調査は、叩き網法、掬い採り法および目視によりおこなった。叩き網法とは、約 80 cm 四方の白布の 4 隅を竹 2 本で十字状に組み合わせたものを広げ、これを花や葉の下に置き、棒切れなどで花や葉を叩いて、白

布の上に昆虫を落として採集する方法である。掬い採り法とは、杵の丈夫な捕虫網で雑草を掬って採集する方法である。これらの方法により、目視では発見できない昆虫を採集できる。

調査は1981年に開始した。1981年から1985年は年に数回、1986年から1999年は年に1~2回、2000年は4, 5, 6, 7, 8, 9月で15回の調査をおこなった。

これまで多数の生息が確認されていたが、2000年度の調査で確認できなかった種

Dorytomus urakoe (Morimoto et Enda, 1962) ポプライネゾウモドキ (写真1)

1983年4月農学部の手入れ場のヤマナラシで大量に発生しているのを確認し多数採集した。本種は成虫の期間が短く、1984年の調査では5月2日初見で10数頭を確認、約1週間後には100頭以上を確認したが、5月19日には確認できなかった。本種は葉に不規則な食跡(写真2)を残すことから、生息の確認は容易であり、鏡が池南側のヤマナラシにも注目して調査してきたが、確認していない。さらに近隣の平和公園のヤマナラシも調査したが生息を確認していない。その後農学部の手入れ場のヤマナラシが伐採されてからは名古屋大学構内から発見できず絶滅したと考えられる。名古屋大学構内のヤマナラシは自生に疑問がある¹⁾とされており、農学部の手入れ場のヤマナラシが他の場所から移植されたときにこの種が持ち込まれたと考えられる。

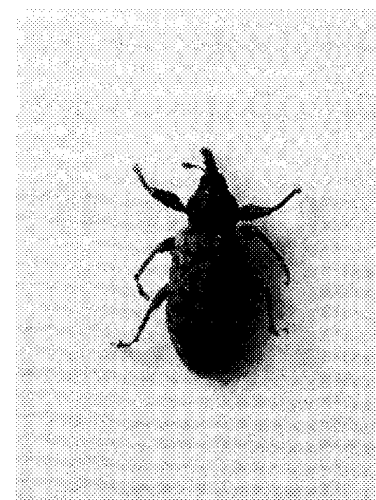


写真1

本種は愛知県の甲虫相概論に記載されていない貴重な種であり、絶滅したとすれば非常に残念である。



写真 2



写真 3

Mecysolobus erro (Pascoe, 1873) ホホジロアシナガゾウムシ (写真 3)

本種はハゼやヌルデの若芽を切って産卵²⁾ する。大学構内ではヤマウルシから採集した。ヤマウルシの切断痕 (写真 4) を探すことにより採集できるが 2000 年の調査では、切断痕、成虫とも確認できなかった。2000 年 6 月近隣の平和公園では切断痕、成虫とも確認できているので大学構内での調査が不十分であると考えられる。

2000 年度の調査で新たに生息することが確認できた特長ある種

Phyllobius (*Phyllobius*) *intrusus* Kono, 1948 ヒラズネヒゲボソゾウムシ (写真 5)

本種は 4~5 月にスギやヒノキの新芽を食害する²⁾、愛知県からは設楽町など東三河にのみ記録がある³⁾。大学構内からは農学部の研究用に植



写真 4

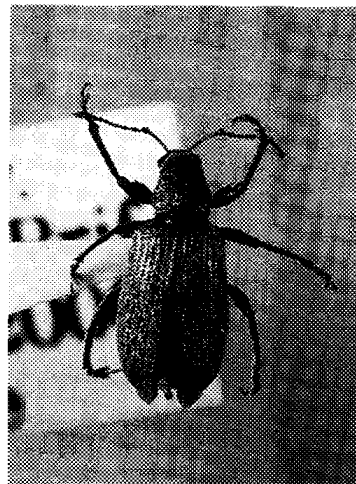


写真 5

樹してあるヒノキから採集した。名古屋大学構内の自生のヒノキは文献¹⁾によると確認固体数は2以下，確認産地は1地点，確認固体は稚樹のみとなっており，この種は大学構内に生息していたのではなく，農学部東山キャンパス移転時にスギまたはヒノキとともに持ち込まれた種が継続して生息していると考えられる。当時を知る農学部技術部技術長鈴木道代氏からの聞き取り調査ではスギは豊川市為当町造園業より，ヒノキは岐阜県営林署みどりが丘苗畑より移植されたとのことである。今後研究計画の変更とうで研究用のヒノキを伐採することになればこの種は名古屋大学構内から絶滅すると考えられる。

Baris sp. (写真 6 の右)

農学部東側の湿地のカナムグラから多数採集した。黒色無紋のヒメゾウムシ類の種の検索表²⁾には該当しない。日本昆虫学会会員市橋甫氏に同定を依頼している。

Baris sp. (写真 6 の左)

サンゴジュから採集した。サメハダヒメゾウムシ *Baris nipponica* Kono, 1928²⁾ に似るが，上翅基部第3間室に白紋があることから別種で

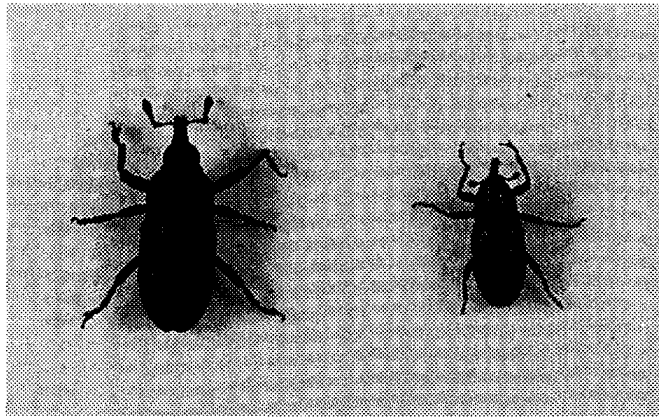


写真 6

ある。新種の可能性があり現在日本昆虫学会会員市橋甫氏に同定を依頼している。名大構内の2個所のサンゴジュから採集しているが、その1個所である農学部北側のサンゴジュは道路の拡幅工事のためすでに伐採されている。今後更に詳しい調査が必要な種である。

年別採集記録

この20年間にゾウムシの生息状況がどのように変化したかを表1年別採集記録に示す。2000年度の調査では、これまで19年間に採集した56種のうち約半数の27種を採集し、新たに6種を採集した。2000年度採集できなかった29種のうち19種はこれまで採集頭数が5以下であり名大構内では採集し難い種である。これまで5頭以上採集例があり2000年度採集できなかった10種の内シロコブゾウムシ・ハスジカツオゾウムシ・カツオゾウムシ・タデノサルゾウムシの4種は路傍の植物から採集できる種であり除草剤の影響を受ける可能性が高い種であり、今後注目していく必要がある。セダカシギゾウムシは、農学部北側のガマズミの花から採集している。すぐ北側は交通量の多い道路でありその影響を受けている可能性がある。コマツノシラホシゾウムシは、伐採集積されたマツから採集したが、2000年度はマツの伐採集積場所がなく採集できなかった。

表1 年別採集記録

－：採集できず ＋：採集頭数1, 2 ++：採集頭数3-10 +++：採集頭数11以上

		1981-1982	1983	1984	1985-1999	2000
1	ヒラズネヒゲボソゾウムシ	－	－	－	－	++
2	クリイロクチブトゾウムシ	－	+++	+	－	++
3	ウスアオクチブトゾウムシ	－	－	++	－	+++
4	カシワクチブトゾウムシ	++	++	+++	－	+++
5	クロホシクチブトゾウムシ	－	++	－	－	+
6	チビヒョウタンゾウムシ	－	++	－	－	+
7	ホソヒメカタゾウムシ	－	－	－	+	－
8	イコマケシツチゾウムシ	－	+	－	－	－
9	シロコブゾウムシ	++	－	－	+	－
10	スグリゾウムシ	－	+	－	++	++
11	サビヒョウタンゾウムシ	－	+	+++	+	+
12	ハコベタコゾウムシ	+	－	－	+	+
13	ヤサイゾウムシ	－	+	－	+	－
14	ハスジカツオゾウムシ	－	++	++	+	－
15	カツオゾウムシ	－	－	++	－	－
16	ホホジロアシナガゾウムシ	++	+	+	－	－
17	カシアシナガゾウムシ	+	+	－	－	++
18	オジロアシナガゾウムシ	+	+	++	－	++
19	ポプライネゾウモドキ	－	+++	+++	－	－
20	イネミズゾウムシ	－	+	++	－	－
21	Cionos sp.	++	+	+++	+	+++
22	リンゴノミゾウムシ	－	－	－	+	+
23	カシワノミゾウムシ	－	+	－	－	+++
24	マダラノミゾウムシ	－	+++	+	+	－
25	アカアシノミゾウムシ	－	－	－	－	+++
26	アシブトゾウムシ	－	－	－	+	－
27	シュロゾウムシ	+++	++	++	+	+++
28	イチゴハナゾウムシ	－	－	+	+	+
29	セダカシギゾウムシ	++	+	++	+	－
30	ウスモンチビシギゾウムシ	－	－	+	－	－

31	ジュウジチビギゾウムシ	+	++	+++	+	+++
32	クヌギシギゾウムシ	-	+	-	-	-
33	Curculio sp.	-	+	-	-	-
34	レロフチビシギゾウムシ	-	-	++	-	-
35	クワヒメゾウムシ	-	-	-	+++	++
36	エゾヒメゾウムシ	++	-	+++	++	++
37	マダラヒメゾウムシ	-	-	-	+++	+
38	タテスジアカヒメゾウムシ	-	-	+	-	+
39	Baris sp. (カナムグラ)	-	-	-	-	+++
40	Baris sp. (サンゴジュ)	-	-	-	-	+++
41	アカアシクチブトサルゾウムシ	-	++	+++	++	++
42	コブナシクチブトサルゾウムシ	-	+	-	+	-
43	タデノクチブトサルゾウムシ	-	-	+	-	+
44	ツツジトゲムネサルゾウムシ	+++	++	+++	+	+++
45	ダイコンサルゾウムシ	-	-	+++	++	++
46	ミドリサルゾウムシ	-	-	-	+	-
47	アオバネサルゾウムシ	-	-	+	++	+++
48	タデサルゾウムシ	-	+++	+++	++	-
49	トゲハラヒラセクモゾウムシ	-	-	-	-	++
50	ツツクイゾウムシ	-	-	+	-	-
51	ツツゾウムシ	-	+	-	-	-
52	ウスモンカレキゾウムシ	-	-	-	+	-
53	コクロアナアキゾウムシ	-	-	-	+	-
54	ホソアナアキゾウムシ	-	++	++	-	+
55	クリアアナアキゾウムシ	-	-	-	+	-
56	マツアナアキゾウムシ	-	+	-	-	-
57	クロコブゾウムシ	-	-	-	+	-
58	マダラアシゾウムシ	-	-	-	+	-
59	タカオマルクチカクシゾウムシ	-	-	-	-	++
60	コマツノシラホシゾウムシ	+	++	-	++	-
61	ヒサゴクチカクシゾウムシ	-	++	-	+++	+
62	アラムネヒサゴクチカクシゾウムシ	-	+	-	+	-

名古屋大学構内のゾウムシ目録

学名，和名，掲載順は文献⁴⁾ にしたがった。但しアラムネヒサゴクチカクシゾウムシは文献⁵⁾ の記述にしたがった。

Curculionidae

ゾウムシ科

Otiorhynchinae

クチブトゾウムシ亜科

- 1) *Phyllobius* (*Phyllobius*) *intrusus* Kono, 1948

ヒラズネヒゲボソゾウムシ

農学部の研究用に植樹してあるヒノキから採集した。

- 2) *Cyrtopistomus castaneus* (Roelofs, 1873)

クリイロクチブトゾウムシ

コナラ，アベマキなどの広葉樹から採集した。

- 3) *Macrocorynus elegantulus* Roelofs, 1873

ウスアオクチブトゾウムシ

コナラ，アベマキなどの広葉樹から採集した。

- 4) *Myloccerus griseus* Roelofs, 1873

カシワクチブトゾウムシ

コナラ，アベマキなどの広葉樹から採集した。

- 5) *Myloccerus nigromaculatus* Roelofs, 1873

クロホシクチブトゾウムシ

コナラ，アベマキなどの広葉樹から採集した。

- 6) *Myosides seriehispidus* Roelofs, 1873

チビヒョウタンゾウムシ

地表や落葉中にすみ，冬期土をふるって採集できる²⁾ とあるが名大構内ではママコノシリヌグイから採集した。

- 7) *Asphalmus japonicus* Sharp, 1896 ホソヒメカタゾウムシ

何から採集したか記録していない。

8) *Trachyphloeosoma advena* Zimmerman, 1956

イコマケシツチゾウムシ

土中に多い，土をふるって1年中採集できる²⁾ とあるが，落ち葉の中から採集した。

9) *Episomus turritus* (Gyllenhal, 1833)

シロコブゾウムシ

体長 10 mm 以上でゾウムシの中では大きいほうである，ハギなどから採集した。

10) *Pseudocneorhinus bifasciatus* Roelofs, 1879

スグリゾウムシ

ヒトツバタゴ，サルスベリ，サクラなどから採集した。

11) *Scepticus griseus* (Roelofs, 1873)

サビヒョウタンゾウムシ

ヨモギから多数採集したが，2000 年度調査では1頭しか採集できない。

Hyperinae

タコゾウムシ亜科

12) *Hypera basalis* (Voss, 1937)

ハコベタコゾウムシ

ウシハコベに多い²⁾ とあるが，名大構内では本種の生息している植物を特定できていない。

13) *Listroderes costirostris* Schoenherr, 1826

ヤサイゾウムシ

何から採集したか記録していない。

Cleoninae

カツオゾウムシ亜科

14) *Lixus acutipennis* (Roelofs, 1873)

ハスジカツオゾウムシ

ヨモギから採集した。

15) *Lixus impressiventris* Roelofs, 1873

カツオゾウムシ

ヨモギから採集した。

Mecysolobinae

アシナガゾウムシ亜科

16) *Mecysolobus erro* (Pascoe, 1873) ホホジロアシナガゾウムシ
ヤマウルシから採集した。

17) *Mecysolobus piceus* (Roelofs, 1875) カシアシナガゾウムシ
広葉樹から採集した。

18) *Mesalcidodes trifidus* (Pascoe, 1870)
オジロアシナガゾウムシ
クズから採集した。

Erirhininae イネゾウムシ亜科

19) *Dorytomus urakoe* (Morimoto et Enda, 1962)
ポプライネゾウモドキ
ヤマナラシから多数採集した。

Bagoinae カギアシゾウムシ亜科

20) *Lissorhoptrus oryzophilus* Kuschel, 1951
イネミズゾウムシ
何から採集したか記録していない。

Cioninae タマゾウムシ亜科

21) *Cionus* sp.
文献⁶⁾ で新種かもしれないとして写真で示されているゾウムシに似ている。

Rhynchaeninae ノミゾウムシ亜科

22) *Rhamphus pulicarius* (Herbst, 1795)
リンゴノミゾウムシ

体長 1.5 mm ほどで、名大構内で採集したゾウムシの中では最小である。2 頭しか採集していない。

23) *Rhynchaenus (Orchestes) japonicus* (Hustache, 1920)
カシワノミゾウムシ

広葉樹から多数採集した。

24) *Rhynchaenus (Orchestes) nomizo* (Kono, 1930)

マダラノミゾウムシ

広葉樹から採集した。

25) *Rhynchaenus (Orchestes) sanguinipes* (Roelofs, 1874)

アカアシノミゾウムシ

東山構内西側，附属学校グラウンド東側の植え込みをはじめ，ケヤキ，東側のサンゴジュなどさまざまな植物から採集した。

Tychiinae

コガタゾウムシ亜科

26) *Endaeus nipponicus* Voss et Chujo, 1960

アシブトゾウムシ

1 頭しか採集していない。

Petalochilinae

シュロゾウムシ亜科

27) *Derelomus uenoi* Morimoto, 1959 シュロゾウムシ

シュロの花が花粉をつけた頃に花粉の中から採集した。シュロの花の開花時期以外は採集できない。

Anthonominae

ハナゾウムシ亜科

28) *Anthonomus bisignifer* Schenkling, 1934

イチゴハナゾウムシ

バラ科の植物から採集した。

Curculioninae

シギゾウムシ亜科

29) *Curculio convexus* (Roelofs, 1874) セダカシギゾウムシ

ガマズミの花から採集した。

30) *Curculio minutissimus* Dalla Torre et Schenkling, 1932

ウスモンチビシギゾウムシ

1 頭しか採集していない。

31) *Curculio pictus* (Roelofs, 1874) ジュウジチビシギゾウムシ

早春にコナラ，アベマキから採集した。6 月以降採集できない。

32) *Curculio robustus* (Roelofs, 1874) クヌギシギゾウムシ

3 頭採集しているが、ドングリの実をつける植物から採集した。クヌギの実に産卵する²⁾ と記述してある。名大構内にはクヌギはない¹⁾。

33) *Curculio* sp.

クヌギシギゾウムシとよく似ているが、明らかに吻の太さが異なる別種を 3 頭採集した。*C. conjugaris* (Faust, 1882) ニセコナラシギゾウムシに似ているが、今後多数の固体を比較検討する必要がある。

34) *Curculio roelofsi* (Heller, 1927) レロフチビシギゾウムシ

31) *Curculio pictus* (Roelofs, 1874) ジュウジチビシギゾウムシと採集時期、生息する植物は同じであるが、上翅中央白帯は第 4 間室で欠ける²⁾ ことから区別できる。

Baridinae ヒメゾウムシ亜科

35) *Baris deplanata* Roelofs, 1875 クワヒメゾウムシ

農学部圃場南側に廃棄されたクワの枯れ木から採集した。

36) *Baris ezoana* Kono, 1940 エゾヒメゾウムシ

ヨモギから採集した。

37) *Baris orientalis* Roelofs, 1875 マダラヒメゾウムシ

イノコズチから採集した。上翅背面はマダラの模様があり容易に区別できる。

38) *Baris rubricata* Hustache, 1921 タテスジアカヒメゾウムシ

2 頭しか採集していないが、いずれもサンゴジュから採集した。赤褐色の上翅に一对の白色のすじがあり区別できる。

39) *Baris* sp.

カナムグラから採集した。

40) *Baris* sp.

サンゴジュから採集した。

Ceutorhynchinae サルゾウムシ亜科

- 41) *Rhinoncus cribricollis* Hustache, 1916
アカアシクチブトサルゾウムシ
路傍の雑草から採集した。
- 42) *Rhinoncus perpendicularis* (Reich, 1797)
コブナシクチブトサルゾウムシ
路傍の雑草から採集した。
- 43) *Rhinoncus sibiricus* Faust, 1893
タデノクチブトサルゾウムシ
ミゾソバから採集した。
- 44) *Mecysmoderes fulvus* Roelofs, 1875
ツツジトゲムネサルゾウムシ
モチツツジから採集した。
- 45) *Ceuthorhynchidius albosuturalis* (Roelofs, 1875)
ダイコンサルゾウムシ
ナズナ、イヌガラシから採集した。
- 46) *Ceutorhynchus diffusus* Hustache, 1930
ミドリサルゾウムシ
1 頭しか採集していない。近隣の平和公園からも 1 頭採集している。
- 47) *Ceutorhynchus ibukianus* Hustache, 1916
アオバネサルゾウムシ
イヌガラシから採集した。多数生息している。
- 48) *Homorosoma asperum* (Roelofs, 1875)
タデサルゾウムシ
ミゾソバから採集した。
- Zygopinae クモゾウムシ亜科
- 49) *Metialma cordata* Marshall, 1948
トゲハラヒラセクモゾウムシ

カナムグラから採集した。平和公園のカナムグラから多数採集しているが名古屋大学のカナムグラからは3頭しか採集していない。

Magdalinae ツツクイゾウムシ亜科

50) *Magdalis (Magdalis) memnoia* (Gyllenhal, 1837)

ツツクイゾウムシ

1頭しか採集していない。

Carciliinae ツツゾウムシ亜科

51) *Carcilia strigicollis* Roelofs, 1874 ツツゾウムシ

何から採集したか記録していない。

Acicnemidinae カレキゾウムシ亜科

52) *Acicnemis palliata* Pascoe, 1872 ウスモンカレキゾウムシ

フジから採集した。

Hylobiinae アナアキゾウムシ亜科

53) *Dyscerus cribratus* (Roelofs, 1873) コクロアナアキゾウムシ

何から採集したか記録していない。

54) *Dyscerus elongatus* (Roelofs, 1873) ホソアナアキゾウムシ

カキから採集した。

55) *Dyscerus exsculptus* (Roelofs, 1875) クリアアナアキゾウムシ

何から採集したか記録していない。

56) *Hylobitelus haroldi* (Faust, 1873) マツアナアキゾウムシ

何から採集したか記録していない。

57) *Niphades variegatus* (Roelofs, 1873)

クロコブゾウムシ

何から採集したか記録していない。

Cryptorhynchinae クチカクシゾウムシ亜科

58) *Ectatorhinus adamsii* Pascoe, 1871 マダラアシゾウムシ

燈火に飛んできた1頭と西側キャンパスのケヤキから採集した。

59) *Orochlesis takaosanus* Kono, 1932

タカオマルクチカクシゾウムシ

サクラ，キリの枯枝から採集した。

60) *Shirahosizo pini* Morimoto, 1962 コマツノシラホシゾウムシ

マツの倒木から採集した。

61) *Simulatacalles simulator* (Roelofs, 1875)

ヒサゴクチカクシゾウムシ

朽ちかけている倒木から採集した。

62) *Simulatacalles pustulosus* Morimoto et Lee, 1992

アラムネヒサゴクチカクシゾウムシ

朽ちかけている倒木から採集した。

愛知県の甲虫相概論に記載されていない種

日本のゾウムシ科昆虫の記録は，環境庁編日本産野生生物目録無脊椎動物II⁴⁾で248属672種が報告されている。また愛知県のゾウムシ科昆虫の記録は，穂積俊文愛知県の甲虫相概論で91属160種報告されている³⁾。著者らは名古屋大学東山キャンパスで41属62種を採集した。その中には愛知県の甲虫相概論に記載されていない以下の12種を含んでいる。

7) *Asphalmus japonicus* Sharp, 1896 ホソヒメカタゾウムシ

19) *Dorytomus urakoe* (Morimoto et Enda, 1962)

ポプライネゾウモドキ

24) *Rhynchaenus (Orchestes) nomizo* (Kono, 1930)

マダラノミゾウムシ

30) *Curculio minutissimus* Dalla Torre et Schenkling, 1932

ウスモンチビシギゾウムシ

- 32) *Curculio robustus* (Roelofs, 1874) クヌギシギゾウムシ
 38) *Baris rubricata* Hustache, 1921 タテスジアカヒメゾウムシ
 46) *Ceutorhynchus diffusus* Hustache, 1930
 ミドリサルゾウムシ
 47) *Ceutorhynchus ibukianus* Hustache, 1916
 アオバネサルゾウムシ
 48) *Homorosoma asperum* (Roelofs, 1875)
 タデサルゾウムシ
 53) *Dyscerus cribratus* (Roelofs, 1873) コクロアナアキゾウムシ
 60) *Shirahosizo pini* Morimoto, 1962 コマツノシラホシゾウムシ
 62) *Simulatacalles pustulosus* Morimoto et Lee, 1992
 アラムネヒサゴクチカクシゾウムシ

今後名大の自然環境を考える上で調査が容易な種

- 4) *Myloccerus griseus* Roelofs, 1873 カシワクチブトゾウム
 コナラ、アベマキなどの広葉樹に多数生息している。生息期間は4月から9月までと長期間であり採集しやすい。
- 18) *Mesalcidodes trifidus* (Pascoe, 1870)
 オジロアシナガゾウムシ
 構内の多くの場所に自生しているクズに生息している、体長10 mm程度であり、かつ上翅は黒地に白の紋があり目視での確認が容易であり、比較的多数生息している。
- 27) *Derelomus uenoi* Morimoto, 1959 シュロゾウムシ
 シュロの花の開花期間以外は採集できないがシュロの花から多数採集できる。
- 44) *Mecysmoderes fulvus* Roelofs, 1875
 ツツジトゲムネサルゾウムシ

ンパスにおいて創設以来連綿と続いてきた「緑とグリーンベルトの保存」という基本構想を踏まえ、時代の変化に対応しつつもその特色を再認識し、キャンパスを共有の財産として次世代に継承していく、持続的発展的な研究環境の形成⁷⁾」という目標が守られてきているかどうかについては、ゾウムシ科昆虫の生息状況から考察すると、東山キャンパスの「緑とグリーンベルトの保存」という基本構想が守られてきたといえる。

今後名古屋大学の改革に伴う建物の増築、新築による植物の伐採、あるいは除草を目的とした過大な除草剤の使用、名古屋大学周辺の開発に伴う樹木の伐採などにより、生息している昆虫も構内から絶滅する可能性がある。自然環境を維持しつつ、名古屋大学の教育・研究を発展させるためには、本報告で述べたゾウムシ科昆虫だけでなく多様な生物についての調査研究が必要であると考えられる。

最後に、本稿の発表にあたり、日本昆虫学会会員市橋甫氏に同定と資料の提供などの協力を頂いた。本学生命農学研究科宮田正氏に校閲をして頂いた。また、本研究には平成 12 年度科学研究費補助金(奨励研究(B))の助成を使用した。記して謝意を表します。

文献

- 1) 高木典雄・高橋千裕・松原輝男・広木詔三、名古屋大学構内の植生 (I) 樹木相と樹林構造。名古屋大学教養部紀要 B (自然科学・心理学), 第 21 輯 (1977 別刷), 93-111
- 2) 林匡夫・森本桂・木元新作, 原色日本甲虫図鑑 (IV)。保育社
- 3) 愛知県農地林部自然保護課, 愛知県の昆虫(上)。平成 2 年 3 月, 穂積俊文, 愛知県の甲虫相概論, 200-309
- 4) 環境庁編日本産野生生物目録無脊椎動物 II。1995
- 5) 森本桂, 日本産土壌ゾウムシ類概説。昆虫と自然 28 (2), 1993, 19-24
- 6) 穂積俊文, (1983) 東海甲虫誌 (第 25 報) ゾウムシ科 (その 2)・オサゾウムシ科。佳香蝶, Vol. 35, No. 133, Mar. 1983, 1-8
- 7) 名古屋大学キャンパスマスタープラン'97